

タナゴ調査報告レポート

2015. 1. 27

八王子市立由井第一小学校

4年3組担任 竹田 宏規

(1) 調査での気づき

実際にフィールドワークに参加して、ため池のタナゴをはじめとする水生生物の調査が簡単ではないことに驚いた。必要な器材・用具は実によく考えられて準備され、随所に工夫が見られた。また、技術も投網や用具の操作など、先生方の様々な技術の熟練度には目を見張るものがあった。タナゴの調査の意義については、外来種がもたらす危機感というものが個人的にはあまりひしひしと感じられなかったが、自然を守るために調査していくという理解で納得していた。

(2) 調査内容で得た知識を応用した授業実施の概要

このフィールドワークは理科の教材として扱えるだけでなく、道徳の教材とも関連していることがわかった。職場の学校で使っている道徳の教科書「みんなで考えるどうとく」(日本標準)4年生のP85「海をわたってきた生き物たち」では、外来種の問題を扱っている。そこで、まずこの道徳で1時間外来種について学習してから、タナゴの調査について子供たちに報告するという展開の授業を実施した。そこで、役に立ったのが現地で撮影した後送られてきた写真の数々であった。これらの写真から必要な物をピックアップして、プロジェクターを使って大きな画面に投影したものを見せながら説明をしていった。事実や出来事を感動を交えながら話すことで子供たちにもこの調査のことがよく伝わったと思う。

(3) 授業実施時の子どもたちの反応や感想

子供たちは、フィールドワークについて知識が皆無だったので、新しいことを知ったという点で斬新なようであった。普段の教科書を使った授業とまるで違うのもいいことだと思った。

(4) 授業を実施してみた先生自身の感想

タナゴ調査を中心とした授業を展開したことは良かったが、キャリア教育的な側面があつて良かったかなと授業後は考えている。どういうことがというと、岐阜大学の角田先生の大学の研究者としての側面をもっとクローズアップして授業をさらに組み立てるという考えである。大学の先生は、もっと地味な活動をしているイメージがあつたが、とても行動的でおもしろい職業だなと思うようになった。それを子供たちに知らせることも大切なことだと考えている。

(5) 今後の授業に本調査をどう生かしていけそうか

また、このような調査に参加してみたいと思う。授業に生かすだけでなくボランティアとして参加することで少なからず自然を守っているような気持ちになったからである。また、よろしくをお願いします。

